



2019年 5月人権一口講座



新元号「令和（れいわ）」の手話



5月1日は「即位の日」となり、この日より新元号の「令和（れいわ）」が始まります。皆さんは、さかのぼること1カ月前は、どのように過ごされていましたか？ このような事を語り始めた私は、新元号の発表をまだかまだかとテレビを幾度も覗き込みながら、その時を待っていました。

しかしながら私は、そう生活に深く関係して新元号を待っていた人とは言えません。ですが、生活に密着したところで、この新元号を不安ながらに待ち、発表後に晴れやかに「決まって良かった！」とテレビに映し出された人々を知りました。テレビに映し出されたその人々は、手話通訳の仕事に関わる皆さんでした。手話は言葉や出来事に合わせ、新しく作り出されるものもあるそうで、今回この「令和（れいわ）」の年号を表す手話が新しく作られました。その手話は、「令和（れいわ）」が万葉集にある梅の花に縁があるとして、「花が咲く」と「未来」を基にして、次のような動きとなりました。「ゆっくりと花咲く動きをしながら、未来を表す動作である体の近くから手を出すように遠ざける動き」、これが「令和（れいわ）」の手話となるそうです。手話は聞こえない人や聞こえない人が使うものだと思う人が多いと思いますが、ですが、手話を知る人が少なければ、聞こえない人は、自分の思いを伝える機会がとも限られてきます。ですが、ほんの少しでも手話を知る人々が周りにいると「ほっ」と安心して、その日その時を過ごすことができるのです。手話を絶対覚えたいと会話が出来ないのでは？と思う人もいます。ですが、手話だけが聞こえない人や聞こえない人達との会話の手段ではありません。「筆談」もあります。筆談は、高齢者の方との会話でも使えます。会話をする（コミュニケーションをする）方法はひとつだけではないのです。その人に合わせた会話やコミュニケーションの方法があるのです。知ってもらい、是非「やってみよう」と取り組んでもらえたらと思います。

手話による「令和（れいわ）」を見知る機会があると思います。覚えていただけたら嬉しく思います。

（熊本市ふれあい文化センター広報紙「かけはし」二〇一九年度五月号より）

短いメッセージ

ばあちゃんとはあちゃんと
ばあちゃんの笑顔
テレビ見る時 二人で笑う
その笑顔 ずっとみてたい

熊本市・熊本市教育委員会・熊本市人権啓発市民協議会 人権カレンダー 田庭小学校5年 若田恵依さん（平成30年度の作品より）